

1 年 1 組

花いっぱい 幸せいっぱい ～『カラフル ハッピーかだん』～



花がいっぱい咲いたら気持ちがよくなるよ

9月になり、1年1組の『カラフルハッピーかだん』にまたしても不思議なことが起こりました。育てているのは、メロン・スイカ・朝顔・ひまわりの4種類ですが、メロンやスイカと一緒に『謎の実』ができていました。これは、スイカなのか、メロンなのか、それとも二つが混ざったものなのか……。子どもたちは、実習生の先生たちの力も借りながら『謎の実』の正体を明らかにすべく、探偵になって調査をしました。Aさんは、茎と実の接続部分に注目していました。「スイカやメロンは、繋がっているところが細いのに、謎の実は、太いんだよ。これは、かぼちゃに似ているよ」と言って、かぼちゃの本を見て確かめます。「ほら、かぼちゃは、ここが太いんだよ。だからこれは、かぼちゃなんじゃないかな」と、手がかりを見つけていきました。するとBさんが「中がどうなっているのか見てみたい」と言いました。そこで、二つに割って中を見てみると「かぼちゃだあ」という声と「メロンかぼちゃだ」という声が上がりました。謎の実の正体が、かぼちゃなのではないかと多くの子が思い始めても「本当にかぼちゃなのか食べてみないとわからないよ」と言い張る子もいました。そこで、本当に謎の実のかぼちゃなのか、食べて確かめることにしました。教育実習生の先生は、かぼちゃが苦手な子でも食べやすいのではないかと、かぼちゃクッキーづくりを提案しました。子どもたちも「クッキーならほんのりかぼちゃ味で食べられそう」と意欲を見せていました。



小学校での初めての調理体験を前にまずは紙粘土で練習をしました。こねて伸ばして型取りをして作ってみると、本物のクッキーのようでした。不安が期待に変わったところで、いよいよ謎の実クッキー作り開始です。子どもたちは、生地を混ぜながら「紙粘土よりやわらかい」、「謎の実の方は少し薄いきいろでつぶつぶがあるよ」といろいろなことを発見していました。「おいしくなあれ、おいしくなあれ」とおまじないをかけながらクッキー作りを進めていきました。クッキーが焼きあがると「おいしそう。早く食べたいな。謎の実クッキーはどんな味がするのかな」とワクワク・ドキドキな様子でした。



いよいよ味わう時が来ました。一口食べてみると、Cさんは「かぼちゃよりかぼちゃの味がするよ」、Dさんは「本物のかぼちゃより、謎の実の方が甘いよ。メロンと一緒に育ったから甘くなったのかな」、Eさんは「かぼちゃが苦手だったけれど、これなら食べられる。自分たちで育てたからおいしい」と、謎の実クッキーを食べた感想を話していました。



さて、『謎の実』の正体が『かぼちゃ』ということが、1組探偵の調査結果から分かってきたのですが、なぜスイカやメロンを植えたのにかぼちゃが育ったのでしょうか。実は購入した苗が『接木』の苗だったからです。1組の花壇では、台木のかぼちゃと接木のメロンの両方が育っていたということです。これは私も予想外の展開でした。Dさんが「すいかとメロンを育てたのにかぼちゃもできて嬉しい」と言っていたように、ハプニングをみんなで見つめて楽しめたので、みんなでハッピーになることができました。

みんなの気持ちを結ぶひまわりさん

季節が夏から秋へと移り変わる中、『カラフルハッピーかだん』がなんだか暗く寂しく感じるようになってきた子どもたち。特に、ひまわりさんがいなくなってからは、そう感じるようになりました。

ひまわりさんが残してくれた大切な命の種。Fさんは「一粒の種からたくさんさんの種が取れて、赤ちゃんがたくさん生まれたよ。これはひまわりさんからのプレゼントだよ」と話しました。そこから、この命の種をどうしていいかと話し合いました。Gさんが「種を食べるとひまわりさんの命が自分の命になっていくと思うな」と話すと、Hさんは「命は繋がっていくんだね」と続けて言いました。「ひまわりの種は食べられるんだよ」と、Iさんが言うと、そこから以前に作った謎の実かぼちゃクッキーを思い出して「ひまわりクッキーはどんなかな」と話していました。調べていくとクッキーやケーキ、甘漬けなどひまわりの種を使ったお菓子があることが分かってきました。他にも「種をもう一度育てたい。でもこれから寒くなるから、あったかい家を木とかビニールハウスで作って、そこで育てられないかな」と言う声や、「家族や次の一年生、リスやインコへプレゼントをしたい」と言う声も挙がりました。中でも、ひまわりの種を食べる生き物についてみんなの関心が集まっていました。Jさんは図書館で生き物の飼い方の本を開きながら「先生見て、やっぱりインコはひまわりの種を食べるんだって」Kさんは「リスはご飯じゃなくて、おやつにひまわりの種を食べるんだって」と本で見つけた生き物のことを出し合っていました。その時「かわいいなあ。ハムスターやリスやインコがひまわりの種を食べるところを見てみたいな」と、本を撫でながらつぶやくJさんの姿に、この子たちに生き物と出会う機会を設けたいなと思いました。

花壇での出来事や思い出を音楽の堀先生と歌にしました。その歌を前期終業式で全校のみんなに届けました。しかし、歌詞の中には、朝顔・スイカ・メロン・謎の実ことカボチャは出てくるものの、ひまわりは出てきません。「先生、ひまわりさんの歌もつくりたいな」、「ひまわりさんの歌はいつやるのかな」とひまわりさんも歌にして残したい、歌いたい、届けたいという思いがありました。そこで、カラフルハッピーかだんの歌を鍵盤ハーモニカでも弾きながらひまわりさんへの思いを綴ることにしました。もうすでにメロディーに乗せた歌詞で書いている子もいました。Lさんは「天までとどけ 大きくなあれ、みんなのきもちをむすぶひまわりさん。ひまわりさんが生んでくれたいのちを つぎのいのちとともに 大きくなあれ」と書いていました。

そして10月17日に長野市の動物園へ出かける日を迎えました。これまで、ひまわりの種を食べるリスさんに会いたいと願っていた1組の子どもたち。「早くリスさんに会いたいな」と待ち遠しくてたまらないという様子でした。「ぼくたちのひまわりさんの種も食べてくれるかな」、「リスは本当に種を持ってかじって食べるのか見てみたいな」と疑問や願いを持って出かけました。動物園の飼育員さんに許可をいただき、ひまわりさんの種をリスさんへプレゼントすることができました。私たちのひまわりさんからリスさんの命への繋がりをを感じる事ができました。

